別紙１

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲　第　3308　号	氏 名	村井　聡
論文審査担当者	主査　　吉田　仁　教授 副査　　中牧　剛　教授 副査　　根本　哲生　教授		

論文題名：十二指腸型濾胞性リンパ腫の組織学的形質転換の発症頻度についての長期経過観察

掲載雑誌名：昭和学士会雑誌，第 82 巻，第 4 号，2022 年

濾胞性リンパ腫（FL）は緩徐な経過を示すが組織学的形質転換（HT）をきたすと予後不良とされる．十二指腸型 FL（DFL）は FL の一亜型だが HT の発生頻度を十分に評価した報告はない．村井らは DFL 症例を長期観察と連続的な病理組織診断により HT を検討した．十二指腸・小腸生検で診断された FL 症例を抽出し，節性病変の浸潤例を除外するため，Lugano 分類臨床病期Ⅰ期の 20 症例を対象とした．診断時の Histological grade は全例で Grade 1-2 であり，臨床的な観察期間は中央値 56 か月だった．HT が認められた症例および臨床病期の進行した症例はなかった．DFL における HT の発生頻度を検討するうえで，長期観察を行い HT を組織学的に評価していること，節性病変の浸潤例を除外することは高い信頼性があると考えられた．DFL と的確に診断できる場合には HT のリスクは低く，FL に準じた治療を行うことは過剰な治療となる可能性が示唆された．

本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。

（主査が記載）